

対馬資料館報

創刊号

編集・発行

長崎県立対馬
歴史民俗資料館
対馬厳原町今屋敷
電 (09205) - 2 - 3687

印刷所

長崎市栄町 6 - 23
昭和堂印刷
電 (0958) 21 - 1234

特別企画

「対馬の考古・美術」

展の
案内

開館記念の特別行事として、対馬の歴史と文化の特色を示す重要資料を多く陳列し、「対馬の考古・美術」と題した特別展を開催しています。

これには島内の資料はもとより、文化庁や国立博物館に保管されている対馬の出土品、また東京、および京都の個人所蔵の美術品等をも借用して、この際多くの人々に見ていただくよう企画したものです。

本展の観覧を通して、対馬の歴史的文化遺産を正しく理解し、郷土への認識を深める一助となることを期待しています。

主催 長崎県教育委員会

会場 対馬歴史民俗資料館並びに
厳原町郷土資料館

期間 自昭和五十三年十二月三日
至 十二月十日

入場 無料

出品 考古資料、仏像、経典、古
文書、絵画、金工品、陶磁
器等（百五十余点）

創刊の辞

県立対馬歴史民俗資料館

館長 益田友一



対馬はたびたび行われた学術調査によって、いままで一般に知られなかつた古代から近世にいたる文化財の宝庫として、いまや人々の注目をひくところとなっております。

これらの文化遺産を大切に守り、教育・文化の振興に資したいという県や地元の人々をひとつにした熱意と努力、国の援助等によって、構造・設備ともすぐれた長崎県立対馬歴史民俗資料館の建設がなされ、貴重な資料を収蔵して開館の運びになりました。

このよるこびは今日を期待していた私共にとり、まことにはかり知ることのできない大きなものがあり、これまでその衝にあたって御苦労い

だきました関係者の皆様に深く感謝を申しあげるものでございます。

対馬は「大陸と日本との文化の接点」とよくいわれます。たしかにその位置上も、古代から大陸文化を受容する最初の地で、そこに日本文化と同化した独特のものが存在したことがうかがわれます。

本館収蔵の文化財はこうした点から、日本の文化が大陸文化の影響を受けて発達した、歴史的な足どりをつまびらかにするため、学術的にも貴重なものであるといえます。

また一面では文化財が対馬という地域性から荒廃や散逸を免かれ、よくその姿をとどめているともいわれるが、また宗家の寄託により収蔵した藩政三百年にわたる、ほう大にして貴重な古文書のごとく、関係者の努力によって保存されてきたものを、今後さらに後世に伝えていく重要な意義をもつものであります。

本館は主として、文化財の収蔵・

調査と研究に資することを目的としてはいませんが、「温故知新」のことばどおり、ここを訪れる人々が、歴史民俗資料の中に何かを学びとり、これによって新しい文化の創造・発展に貢献されることを心から念ずるものであります。

なお開館を記念して特別展覧会を催し、考古資料と仏教美術を中心に、島内に存在するものだけでなく、島外に出ている容易に目にすることの難しい重要品も借用し、対馬の歴史文化の特色を正しく認識していただく一助となるようにいたしました。

ここに、本館と皆様のかげはしとなる館報を創刊しました。今後春秋二回にわたって発行し、本館の歩みや収蔵資料の紹介も行ってまいりたいと思います。仕事は緒についたばかりで、充実は今後にもたなければならず、職員と共に不断の精進を期しております。なにとぞ御指導と御援助をいた

だきますようお願いしまして、創刊のあいさつにかえさせていただきます。



隆起文土器

開館式式辞

長崎県教育委員会

委員長 山田治助



本日ここに、県立対馬歴史民俗資料館が竣工いたしましたので、開館式を迎えることになりました。

知事をはじめ、多数の御来賓の方々の御臨席をえまして、このように盛大な開館式を挙行することができ、ますことは、誠に喜びに堪えないところであります。

この歴史民俗資料館が設置されるに至りましたのは、対馬の各町長さんをはじめ、教育長会、並びに対馬の自然と文化を守る会など、各界各層の皆様方の思いを一つにした郷土愛と文化遺産を大切にしようという熱意の現れにほかなりません。

御承知のように、対馬は古代から大陸への道として日本の夜明けに大

きな役割を果たしてまいりました。さまざまな大陸文化受入れの窓口となり、仏教伝来の路として、ある時は国を賭けての戦いの場として、日本の歴史の明暗をそのまま反映してきたのであります。国境の島とか秘

境とかいろいろ勝手な言葉で呼ばれながらも、対馬は大きく変貌しております。陸・海・空にわたる交通の発達には住民に限りなき喜びを与えながらも、反面、対馬は観光の島と変わり本土との交流がはげしくなっておりま

まいました。このような時期に当たって憂慮されますことは、これまで伝来してきた対馬の数多くの歴史・民俗の文化財が骨董的価値によって島外へ流出散逸していくことであります。度重なる学術調査や、文化財総合調査等におきましてもその点が指摘され、文化財収蔵施設建設の機運が高まったのであります。地元からも再三の陳情がなされ、県におきましても、

早くからその緊急性を痛感しておりましたので、文化庁で進めておられる一県一館の県立歴史民俗資料館を対馬に建設することになったものであります。以来対馬町村会をはじめ関係各位の絶大なる御努力と御協力によりまして本日開館の運びとなりましたことは、まことに御同慶にたえません。

この資料館は、延面積一、〇一七平方米。総工費一億六、六〇〇万円。保存と研修を中心とする施設であります。防災施設をはじめ、まれに見る燻蒸施設など自慢のできる資料館であると自負しております。

歴史民俗資料館は、先人が作り育てた地域の歴史や民俗、習俗を理解し、生活の推移を知ることによって新しい文化を創造し推進していくための拠点とならなければなりません。単に物を収めておく倉庫としてではなく、広くこれが活用されることを期待するものであります。

また、当資料館の開館記念行事の一環として、特別展覧会「対馬の考古と美術展」を明日から開催することにいたしておりますが、皆様方には、本日、このあと開場に先き立ち、御覧いただきたいと存じております。なお、この特別展覧会の開催にあ

たりましては、文化庁や国立博物館を初め、関係の方々には絶大な御協力をいただきました。

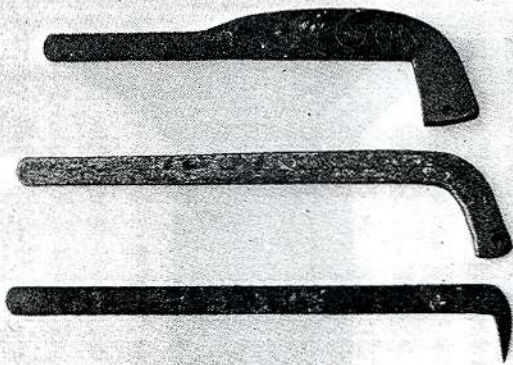
厚く御礼申し上げます。

最後に資料館開館まで、かずかずの御指導、御援助をいただきました関係各位の皆様、工事担当の皆様には厚くお礼を申しあげまして、式辞といたします。

昭和五十三年十二月二日

あわびおこし(いそがね)

上 豆鼓海士
中 曲海女
下 濟州島海女



知事あいさつ



長崎県知事 久保 勘一

本日、県立対馬歴史民俗資料館の開館式を行うにあたり、お喜びのこ

あいさつを申しあげます。

かえりみますと、去る五十一年五月に着工して以来、地元、対馬町村会をはじめ、関係の方々の暖かい御協力を賜り、五十二年三月に建物の竣工をみる事ができました。

その後、先程感謝状をお受けになりました宗先生・古藤先生をはじめ、沢山の方々から貴重な資料を提供していただき、このたびその一部を展示公開するため開館する運びとなりました。

関係の皆様方に厚くお礼を申し上げます。

本日開館いたしますこの歴史民俗

資料館は、文化庁の御指導を受け、収蔵庫の壁や床などに特別の工夫をこらし、又、防災設備もハロゲンガスによる消火法をとり入れるなど、一般の建物とは違った配慮がなされ、提供いただいた資料の保存には万全を期しております。

私が申すまでもございませぬが、長崎県は日本の一番西にあり、アジア大陸に最も隣接しております。中でもこの対馬は、昔から日本本土と大陸との文化交流の要衝であり、その遺産としての文化財は、先程教育委員長がお話になりましたように非常に価値あるものでございます。

私たちは、古い文化を尋ね、大切に保存すると同時に、その古いものを足がかりにして新しい文化を創り出していかねばなりません。

最近では、芸術文化活動が活発になってまいりましたが、これはまことに喜ばしいことでございます。

県におきましては、長崎にありま

す県立美術博物館が現在では手狭になり、運営にも不自由をきたす状態となってきましたので、本年度から二か年計画で総事業費五億円をかけて別館を増築することにいたしました。

また、県民の文化活動の育成発展を目的として、一億円を目標に五十一年に設置しました長崎県文化基金は、更に幅広い文化活動を図るために、県がその二分の一を負担して、二億円の基金を追加して造成することといたしております。

皆様方には、芸術文化の振興や、貴重な民族の遺産であります文化財の保護顕彰について、今後なお一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

祝 辞



最後に対馬歴史民俗資料館の今後の発展を祈念いたしまして、ごあいさついたします。

昭和五十三年十二月二日

対馬町村会

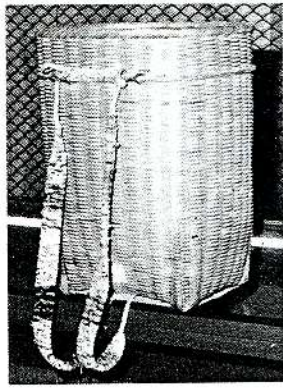
副会長 長 九郎

本日ここに、全島民待望の歴史民俗資料館が開館の運びとなり、衷心より喜びに堪えません。

文化財の重要性については、今改めて述べるまでもありませんが、最近特に価値観が見直されており、国及び県に於いても重点的に施策が講



はぎとうじん



長てぼ

じられていることは、この上ないことであり、私共は今後数多くの文化財を発見していくことに最大の努力を払うべきだと考えます。

本土と韓国を結ぶ飛石の島、わが対馬は古くから交流の歴史の島として注目をあび、近時、学界での各調査も大いに進められているところであります。

古くは、鎖国時代といえども、対馬藩主は、幕府の特別措置によって朝鮮との取引を盛んに行っている経緯からしても、対馬は朝鮮、中国の文化を中心とした、他の地方に見ることのできない価値ある文化財が無数に埋蔵しているといわれております。

これらはいまでもなく、対馬島民の他に求めることのできない貴重な財産であり、私たちは先祖の残したこれらの文化遺産を守り、永遠に

後世に伝える重大な責務があると思えます。

このような観点から、対馬に於ける民俗資料館の開館は時代にふさわしい施設であり、今後、当館を中心として可能な限り、古文書等の収集を行い、名実共に文化財の島として広く啓蒙していくことの必要性を認識せざるを得ません。

特に今回宗武志先生におかれましては、数十万通ともいわれる貴重な古文書を快く御寄託願ひ、当館を更に価値づけ賜わったことに對し、全島民を代表して厚く御礼を申し上げます。

最近、情報網の発達によって、新しい知識が茶の間に流される時代となり、ややもすれば古代に対する関心が薄れがちであります。

古代の解明は、一朝一夕にして成るものではございません。斯様な時に、只ひたすらに考古学に努力賜っている研究者諸氏に對し、あらためて敬意を表する次第であります。

今、私共にとえられた責務として、これらの研究と文化遺産保護のため行政面での積極的な施策が必要な時だと考えます。

島民の間で文化遺産に対する認識を深めていくと同時に、保護運動を

大いに盛り上げ、再びつくりだすことのできないこれらの貴重な文化財を確実に守っていかねばならぬと思えます。そして、今後広くPRを行い、資源の乏しい対馬の観光開発に役立たせると共に、国境の島としての重要性をうたえていくべき、その努力を怠ってはならないと思えます。

このような見事な民俗資料館が、

対馬歴史民俗資料館

開館御祝いの言葉

対馬文化財調査委員長

古藤 満



対馬文化財調査委員会では、昭和四十七年度の事業として、全島の仏像調査を企画して、奈良博物館の菊竹淳一技官の来島を得、それに永留久恵、阿比留嘉博、阿比留政義の三氏が加わって全島にわたって調査を行いました。

今後対馬島民の研究の場として、或いは学究の場として、大いに利用されることを期待して止みません。終りに当館建設に對し、深い御理解と御協力を賜わった県当局を始め、関係機関の皆様と島民の各位に對し、深甚の意を表し喜びの御挨拶いたします。

対馬町村会副会長 長 九郎

昭和五十三年十二月二日

又、時を同うして、九大美学美術史研究室の谷口鉄雄教授御一行も来島され、全島にわたり調査をされました。その結果、谷口教授は対馬は文化財の宝庫であり、一つの美術館を建てる価値があるとし、「ペール」を脱ぐ対馬の「古美術」という論文を、朝日新聞紙上に発表され、対馬にある古美術品を以てすれば、優に博物館が可能であろうと結ばれ、同時にNHKでも同様発表をなさいました。尚、平田助教を態々長崎に出向させて、県教育委員会当局に對馬の



みの（材質しゅうろ）

博物館建設の必要性を力説され、吾々に県立博物館分館設立を指導されたのであります。

そこで、吾々は「対馬の自然と文化を守る会」が中心となり、対馬町村会長、対馬町村議会議長、対馬教育会長の賛同を得て、県に陳状、当地では県立博物館設立促進協議会が出来、全島から一万三百七十六名の署名を得て、対馬選出の国分両面県議の御紹介により、陳状書を県議会に提出し、県議会では万場一致、これを採択され、久保知事は対馬に博物館を造ることを発表されました。

然し、時あたかも三木内閣の総需抑制政策で、非常な困難な状態となり、一時は断念せねばならぬかと

危ぶまれましたが、幸に西岡代議士の積局的な御支援により、文化庁の補助が獲得され、久保知事の御決断御配慮によって今日の資料館設立の結果を見た事を島民は深く銘記せねばなりません。

尚、旧藩主宗武志氏から膨大な宗氏文庫寄託の御承諾があり、これこそ対馬資料館の目玉であります。尚、対馬は民俗資料の宝庫と言われており、当資料館には全島各地からの民俗資料が収集される予定であります。今後は、この資料館を島の宝として、島民が協力して貴重な文化財を守り度いと思えます。

対馬歴史民俗資料館の設立について

1 本館設立の要因

対馬には、考古学上の資料が多く、ことに大陸文化の受容に先駆的な意義をもつ貴重な遺物が、島内各所に発見されているが、これらは地元に適当な収蔵施設がなかったため、国の博物館や大学等の施設に保管されている例が多い。このなかには将来しかるべき施設ができた時は、対馬に還元されることの可能なものもあり、また、後発見される物を郷土に

保存するためにも、博物館の必要を望む声があった。

また、対馬は古文書の宝庫といわれるが、とくに中世文書の多いことで知られている。長崎県史の第一巻は、対馬の文書で全巻埋まっていることは周知の通りだが、これらは郷村の在家の古文書である。

これとは別に、藩政時代のぼう大な日記や記録一万五千冊と、二十万通を超すと見られる書状類、それに数千冊の書籍とがあり、これが「宗家文庫」とよばれるもので、山口県文書館の「毛和文庫」と並ぶ貴重な資料とされている。

これらの古文書が、長い年月を経て損耗し、その保存に重大な問題があるところから、これらをよりよく管理して、研究の利便にも供するたために、文書館の設立を画策する動きが起つてきた。

さらに対馬の仏像調査、古美術調査が行われた結果、驚くほど多数の渡来仏や仏典があることが明らかにになり、これを調査した九州大学の関係学者は、これだけでも博物館を建設するに足る資料だといわれ、島の人々に大きな感銘をあたえた。

なお対馬には、古い民俗が長く伝承されてきたために、貴重な資料が

多く存在していたが、近來これが急速に廃れ、大切な物が島外に持出されるというので、これらを収集し、保存する必要に迫られてきた。

このようにいくつもの要因が重って、「対馬の自然と文化を守る会」（会長古藤満）を中心に、総合博物館建設へと動き出したのである。

2 設立の経過



曲の海人船（模 型）

昭和四十七年より四十八年にかけて、県当局並びに県議会に、対馬に県立博物館の分館設置を陳情し、建設促進協議会が結成された。四十八年度、県教委は対馬地区文化財総合調査を実施。

四十八年秋、県議会は請願を受理して、文教委員会の現地視察が行われた。おりから総需要抑制の方向にあった財政事情の中で、知事は本館の建設に決断を示し、四十九年度予算に調査費が計上された。

四十九年厳原町より用地の提供があり、県において基本設計がなされたが、この間、当初の博物館の構想から、総合資料館とすることに変更された。県より国庫補助について陳情がなされた。

五十年予算に国庫補助七千五百万円が決定し、一般財源九千一百万円、総工費一億六千六百万円で、五十年、五十一年の両年度にかけて施工されることに決定。

五十年度は、用地の整備、敷地内の発掘調査が行われ、五十一年五月着工、五十二年三月竣工。(設計長崎県建築課、建設会社大長崎建設。)本館の条例が施行され、同年四月開館。初年度は施設の乾燥をはかり、資料収集の調査と交渉に当てる。

五十三年度に入って資料を収容し、秋(十二月)に開館式と記念展覧会を行う。

3、本館の基本方針

対馬に存在する考古遺物、古文书等の歴史資料並びに民俗文化の諸資料を収蔵して、これをよりよく保存すると同時に、研究及び教育の用に資することを使命とする。

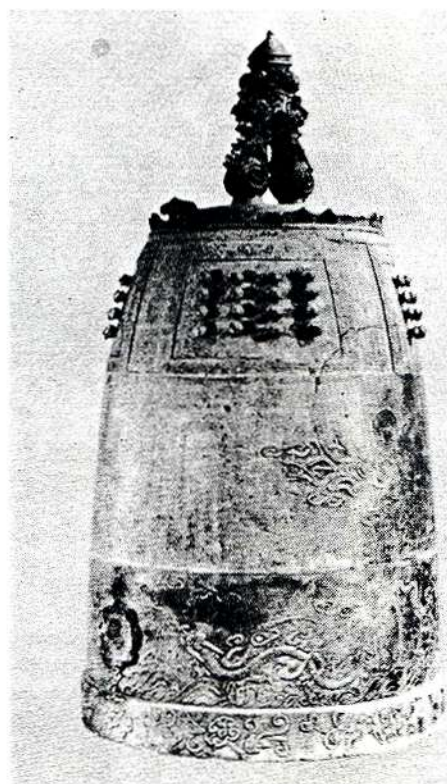
資料紹介

越高式土器(坂田邦洋発掘)

上県町越高の縄文時代早期の遺跡から発掘したもので、韓国釜山の東



越高式土器



銅製梵鐘 総高140cm 室町時代

三洞遺跡から出土している土器と同じ物である。

朝鮮半島と日本列島の文化交流の起源を探るとき、これは貴重な存在として注目される重要な資料である。

梵鐘(厳原町寄託)

応仁三年(一四六九)の銘があり、それには、筑前葦屋の金屋犬工大江貞家外小工十五人によって作られたもので、対馬州仁位郡清玄禅寺に、国主惟宗貞国が奉納したことが刻まれている。

この鐘の特色は、形や文様が朝鮮鐘に做ったものと見られ、和鮮両様式の混合を示している。造形上珍重

すべきものとして、国の重要文化財に指定された。

宗家文庫

(宗武志氏より無期限寄託)

対馬藩政時代の膨大な記録類があるが、そのうち調査が済んで、目録ができた日記類をまず収蔵した。

- A、国元日記(藩庁)
- B、江戸日記(江戸藩邸)
- C、海陸日記(道中)
- D、倭館日記(朝鮮関係)
- E、雑

と大別し、調査の分類にしたがつてAからDの順に整理している。この資料の閲覧を望まれる際は、「宗

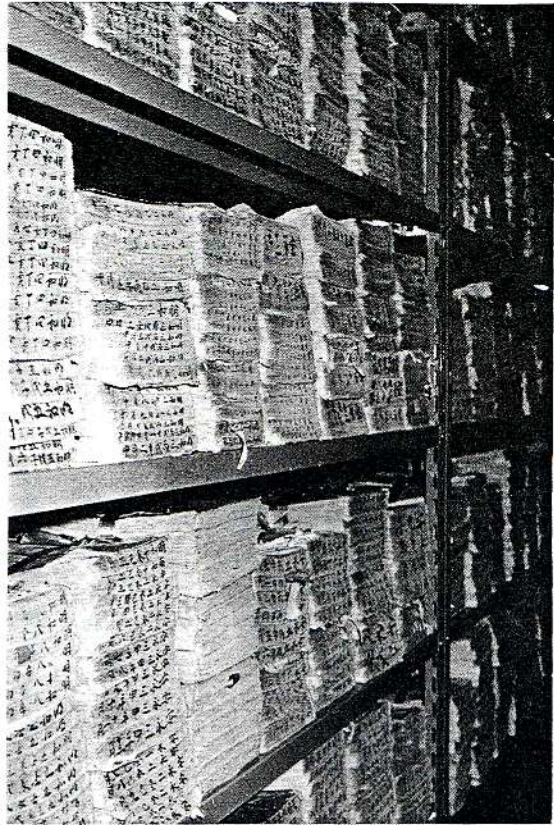
家文庫史料目録」(日記類)を利用
されるとよい。

朝鮮信使絵巻(古藤満氏寄贈)

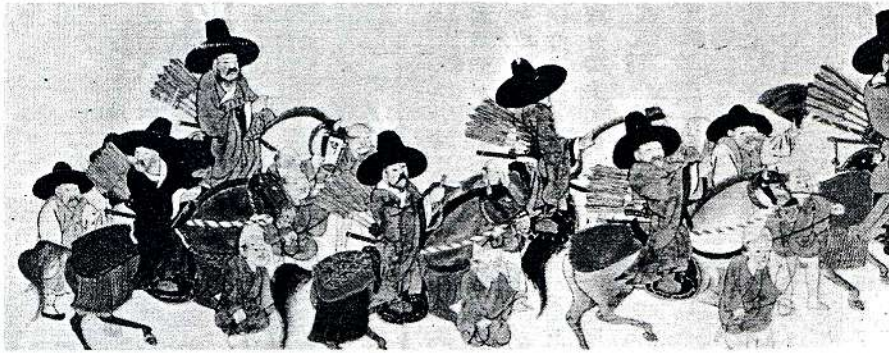
中世の対馬は、朝鮮との通交が盛
んであったが、秀吉の朝鮮出兵によ
ってこれが途絶した。徳川時代にな
って国交が回復し、遣使の往来があ
り、貿易も復活したが、徳川将軍の

慶事に来朝した朝鮮国通信使は、対
馬から江戸まで四〇〇名を越えた行
列で、その応待は国を挙げての盛大
な行事であった。

この絵巻は、年代や作者が明か
でないが、徳川中期の朝鮮使行列を描
いたものと見られ、史料として貴重
なものである。



宗家文庫(日記)



朝鮮使絵巻